
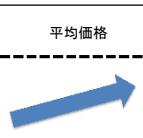



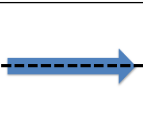

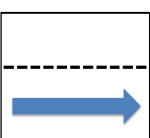

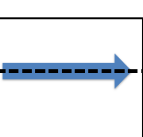

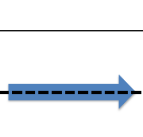

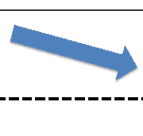



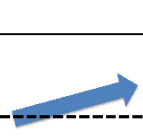

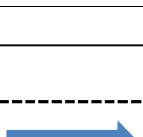



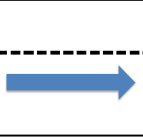
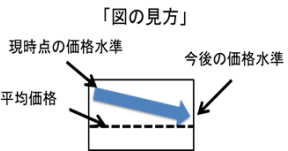


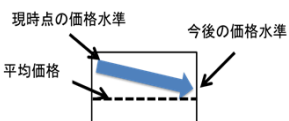

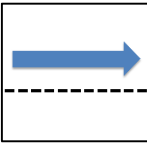

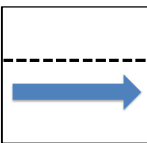
野菜の需給・価格動向レポート(平成27年12月7日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

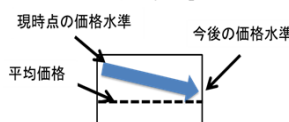
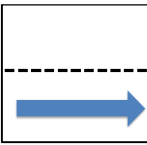

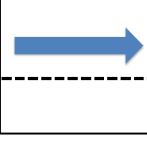

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種 類		11月の価格情報				12月	入荷量及び主要産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
		(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額			(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格			
			上旬	中旬	下旬				
									<div>「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準</div>
葉 茎 菜 類		72.93	105 (144%)	76 (104%)	54 (74%)	72.93	・入荷量：12,961t ・主産地：愛知(42)、千葉(36)		・愛知産は、11月の日照不足はあったものの、適度な降雨と気温高により生育が促進され平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は落ち着いた出荷となり平年並みの出荷の見込み。千葉産は、適度な降雨と気温高により、前進傾向での出荷となっており、現在平年よりやや多めの出荷であるが、今後は落ち着いた出荷となり、平年並みの出荷の見込み。 ・愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		76.91	105 (137%)	72 (94%)	53 (69%)	76.91	・入荷量：3,840t ・主産地：愛知(47)、兵庫(10)、茨城(7)、大阪(7)		
		76.15	62 (81%)	65 (85%)	63 (83%)	76.15	・入荷量：10,254t ・主産地：北海道(94)		・北海道産が、生育期の天候に恵まれ作柄も良好で、平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		76.15	68 (89%)	67 (88%)	65 (85%)	76.15	・入荷量：3,672t ・主産地：北海道(74)、兵庫(25)		
	 (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	240.04	221 (92%)	227 (95%)	230 (96%)	240.04	・入荷量：6,760t ・主産地：千葉(25)、茨城(20)、埼玉(18)、群馬(13)、 栃木(8)、秋田(2)		・千葉産は、現在出荷の序盤であるが、10月～11月にかけて適度な降雨と気温高により生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育の遅れは回復傾向であるものの、9月の大雨による作付面積の減少に加え、他作物の収穫作業を優先していることもあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、現在平年並みの出荷となっているが、11月の適度な降雨と気温高により肥大も良好で生育は順調なことから、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・埼玉産の出荷が平年より多いと見込まれるものの、茨城産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめ若しくは平年並みと見込まれることから、現在概ね平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
		467.01	522 (112%)	400 (86%)	349 (75%)	467.01	・入荷量：1,320t ・主産地：徳島(23)、三重(16)、奈良(16)、高知(13)、 香川(11)、大阪(7)		
		40.32	56 (139%)	44 (109%)	34 (84%)	40.32	・入荷量：14,553t ・主産地：茨城(93)		・茨城産は、9月の大雨の影響による作付面積の減少はあったものの、その後、天候に恵まれ生育は順調で大玉傾向で推移していることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		55.95	64 (114%)	51 (91%)	48 (86%)	55.95	・入荷量：5,374t ・主産地：茨城(29)、和歌山(15)、愛知(10)、岡山(10)、 熊本(9)、大分(8)、兵庫(7)		
		385.11	338 (88%)	279 (72%)	276 (72%)	385.11	・入荷量：1,629t ・主産地：群馬(36)、茨城(18)、千葉(17)、埼玉(17)		・群馬産は、現在落ち着いた出荷となっており、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、最近の適度な降雨と気温高により、生育は順調で前進傾向での出荷となっていたが、今後は落ち着いた出荷となり平年並みの出荷の見込み。千葉産は、適度な降雨と気温高により生育は順調で特段の病害もないことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・前進出荷の影響から出荷が減少し、11月末にかけて値を上げて、平年に近づいている価格は、群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、今後は平年並みに推移する見込み。
		461.74	404 (87%)	301 (65%)	321 (70%)	461.74	・入荷量：587t ・主産地：徳島(39)、福岡(30)、岐阜(12)、群馬(11)		
		143.63	107 (74%)	79 (55%)	106 (74%)	143.63	・入荷量：7,396t ・主産地：静岡(26)、兵庫(15)、長崎(13)、茨城(12)、 香川(9)、熊本(4)		・静岡産は、最近の降雨と気温高により大玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。兵庫産は、降雨後の気温高によりイタミが発生していることに加え、最近の気温の低下に伴い生育の進度が遅くなっていることもあり、現在平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は増量が見込まれ、平年並みの出荷の見込み。長崎産は、最近の気温高により前進傾向での出荷となっていることから、現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は落ち着いた出荷となり、平年並みの出荷の見込み。 ・兵庫産及び長崎産の出荷が平年並みと見込まれるものの、静岡産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、11月末にかけて値を上げ、平年並みとなっている価格は、引き続き平年並みで推移する見込み。
		154.61	115 (74%)	91 (59%)	120 (78%)	154.61	・入荷量：1,479t ・主産地：兵庫(45)、徳島(21)、長崎(13)、香川(6)		
果 菜 類		262.75 370.98	232 (88%)	249 (95%)	375 (101%)	370.98	・入荷量：4,491t ・主産地：宮崎(37)、千葉(20)、高知(19)、埼玉(11)		・宮崎産及び高知産は、11月中旬以降の日照不足や高温の影響で花落ちが見られ、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は出荷が回復し、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、抑制作が終盤期で、後続の越冬作は日照不足などの影響で出荷が遅れているため、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は、越冬作の増量が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。
		284.72 350.33	224 (79%)	226 (79%)	355 (101%)	350.33	・入荷量：963t ・主産地：宮崎(48)、高知(26)、徳島(13)		
		315.83 349.23	307 (97%)	246 (78%)	223 (64%)	349.23	・入荷量：4,745t ・主産地：熊本(45)、愛知(18)、栃木(11)、千葉(10)		・熊本産及び愛知産は、天候に恵まれ着果状態が良く、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、一部のほ場で病害は見られるが、全体的に生育は順調であることから引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は順調で現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は抑制作が切り上がり、落ち着いた出荷が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 ・熊本産、愛知産、栃木産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		337.88 326.61	298 (88%)	246 (73%)	228 (70%)	326.61	・入荷量：963t ・主産地：熊本(70)、愛知(9)		
		301.00 389.03	289 (96%)	313 (104%)	330 (85%)	389.03	・入荷量：1,672t ・主産地：高知(62)、福岡(17)		・高知産及び福岡産は、11月の曇天による日照不足や夜温が高い影響で花落ちが見られたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・高知産及び福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は月末にかけて値を上げ、今後は平年を上回って推移する見込み。
		263.21 397.74	272 (103%)	308 (117%)	344 (86%)	397.74	・入荷量：321t ・主産地：高知(43)、熊本(28)、福岡(17)、岡山(9)		
		378.83	293 (77%)	252 (67%)	252 (67%)	378.83	・入荷量：1,844t ・主産地：宮崎(37)、茨城(27)、高知(19)、鹿児島(16)		・宮崎産は、11月の曇天による日照不足の影響から花落ちが見られたことから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、病害の発生も特段見られないことから、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。茨城産は、10月～11月の天候に恵まれたことで、なり疲れが見られることに加え、最近の曇天の影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年並みと見込まれ、現在の出荷量のペースが続くことから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		371.29	224 (60%)	214 (58%)	239 (64%)	371.29	・入荷量：395t ・主産地：宮崎(52)、高知(22)、鹿児島(10)		
根 菜 類		67.55	66 (98%)	49 (73%)	45 (67%)	67.55	・入荷量：13,554t ・主産地：千葉(49)、神奈川(41)		・千葉産は、最近の適度な降雨と気温が高いことから肥大が進み、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、9月中旬までの天候不順による生育の遅れが見られたが、その後、天候に恵まれ回復したことに加え、最近の降雨により、肥大が進み太物傾向となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産及び神奈川産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年を大幅に下回って推移する見込み。
		76.48	81 (106%)	55 (72%)	44 (58%)	76.48	・入荷量：3,845t ・主産地：和歌山(27)、長崎(25)、鹿児島(19)、徳島(16)		
		105.86	112 (106%)	124 (117%)	109 (103%)	105.86	・入荷量：8,840t ・主産地：千葉(84)		・千葉産は、最近の適度な降雨と気温高により生育は順調で肥大が進み、太物傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		104.49	117 (112%)	126 (121%)	110 (105%)	104.49	・入荷量：2,626t ・主産地：長崎(66)、鳥取(12)、鹿児島(11)、宮崎(6)		



種 類		11月の価格情報				12月	入荷量及び主要産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	<div>「図の見方」 </div>
		(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額			(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格			
			上旬	中旬	下旬				
い も 類		220. 97	227 (103%)	233 (105%)	235 (106%)	220. 97	・ 入荷量：1,915t ・ 主産地：埼玉（56）、千葉（20）		埼玉産は、8月の干ばつの影響で現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は年末に向け出荷の増加が見込まれることから平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は順調だったことから前進出荷傾向であったが、現在はほ場により生育のバラツキが見られることから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少ないと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
		217. 56	286 (131%)	305 (140%)	298 (137%)	217. 56	・ 入荷量：476t ・ 主産地：愛媛（40）、福井（23）、宮崎（14）、熊本（8）、大分（4）、輸入（4）、鹿児島（3）		
		96. 99	92 (95%)	90 (93%)	88 (91%)	96. 99	・ 入荷量：8,368t ・ 主産地：北海道（82）		北海道産が、生育期の天候に恵まれ作柄も良好で、豊作傾向となっており、平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		96. 99	90 (93%)	89 (92%)	89 (92%)	96. 99	・ 入荷量：3,267t ・ 主産地：北海道（83）、長崎（17）		

注： 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/ｋｇ、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場へ出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアであり、関東は本年見込、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス（結球）、トマトについてはトマト（大玉）の数値を用いている。
8 きゅうり、トマト、なすの11月の平均価格は、上段が上中旬、下段は下旬の価格である。

種 類		(参考) 過去5カ年 平均価格	11月の価格情報			12月	入荷量及び主要産地		生育及び価格の12月中旬までの見通し	<div>「図の見方」 </div>
			東京・大阪市場の 旬別価格			(参考) 過去5カ年 平均価格				
			上旬	中旬	下旬					
洋 菜 類	ブロッコリー	282. 01	401 (142%)	257 (91%)	182 (65%)	313. 68	・ 入荷量：2,386t ・ 主産地：埼玉（29）、愛知（24）、群馬（13）、香川（11）、千葉（3）		埼玉産は、11月中旬ごろの高温の影響で前進出荷傾向で推移していたが、最近の気温低下に伴い、玉伸びが悪いことから、現在は平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は生育の回復が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。愛知産は、生育は順調で前進出荷傾向となっており、特段の病害の発生も見られないことから、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ、最近の気温高もあって生育は順調に進んでいることから、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 埼玉産、愛知産及び群馬産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
		359. 34	428 (119%)	320 (89%)	251 (70%)	376. 05	・ 入荷量：599t ・ 主産地：徳島（30）、鳥取（16）、長崎（13）、香川（7）、和歌山（6）			
根 菜 類	ごぼう	210. 20	271 (129%)	272 (129%)	285 (136%)	255. 27	・ 入荷量：1,603t ・ 主産地：青森（75）、茨城（12）、熊本（4）、北海道（3）		青森産は、これまでの天候に恵まれたほ場から、9月の天候不順や台風から変わった低気圧の影響を受けたほ場からの出荷へと切り替わりが本格化する見込み。天候不順や低気圧の影響を受けたほ場では、全般的に細物で短い傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少ない出荷の見込み。 青森産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		157. 67	178 (113%)	185 (117%)	200 (127%)	184. 81	・ 入荷量：1,079t ・ 主産地：茨城（33）、青森（29）、北海道（21）、千葉（5）、輸入（5）			

注： 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別価格は、上段は東京中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/ｋｇである。
3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景ありは平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場へ出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで前年実績である。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、10月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,400[＊]g（平年比104%）、購入金額は、2,170円（同114%）となった。

また、小売物価統計によると、11月のキャベツの小売価格は、210円（過去5カ年平均比128%）、トマトは689円（同94%）、だいこんは145円（同96%）、ばれいしょは315円（同101%）となり、トマト、だいこんで平年を下回ったものの、キャベツ、ばれいしょは引き続き平年を上回っている。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）									
年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年				
	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	平年比	購入金額（円）	平年比	
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	102	1,755	107	
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	103	1,761	106	
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	101	1,939	107	
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	98	2,070	112	
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	98	2,257	118	
6月	5,056	1,902	4,998	1,976	5,044	100	2,157	113	
7月	4,402	1,737	4,542	1,770	4,353	99	1,966	113	
8月	4,315	1,731	4,275	1,846	4,240	98	1,998	115	
9月	4,688	1,844	4,745	2,035	4,836	103	2,143	116	
10月	5,191	1,902	5,455	1,973	5,400	104	2,170	114	
11月	4,990	1,700	5,291	1,704					
12月	5,146	1,927	5,233	1,977					

資料：総務省「家計調査報告（二人以上世帯（農林漁家世帯を除く））」

注：平年は、過去5カ年平均（平成22～26年）。

主要野菜の小売価格（東京都区部）

（単位：kg/円、%）

	キャベツ		トマト		だいこん		ばれいしょ	
	平成27年	平年比	平成27年	平年比	平成27年	平年比	平成27年	平年比
1月	229	108	663	99	154	102	313	99
2月	202	91	696	107	170	100	316	100
3月	169	82	766	109	157	91	324	102
4月	255	105	747	106	192	110	358	106
5月	273	168	702	114	212	138	409	114
6月	188	137	648	116	160	107	443	126
7月	167	104	608	105	188	116	474	144
8月	188	136	593	102	199	122	437	134
9月	226	143	748	109	204	110	343	106
10月	277	159	803	102	182	98	328	103
11月	210	128	689	94	145	96	315	101
12月								

資料：総務省「小売物価統計調査報告」

注：1 平年は過去5カ年平均（平成22～26年）。
2 平成27年11月の値は、11月中旬の速報値。

3 野菜の輸出入動向

貿易統計によると、10月の野菜の輸入量は、生鮮野菜が、6万4千トン（前年同月比98%）、加工野菜が14万1千トン（同103%）、野菜全体では、20万5千トン（同102%）となった。このうち、中国産野菜合計は12万トン（同101%）のとなった。

生鮮野菜は前年をわずかに下回ったものの、加工野菜で、前年を上回ったことから、野菜全体では前年をわずかに上回った。

また、輸出货量は、生鮮野菜が、4,459トン（同530%）、加工野菜が、2,203トン（同121%）、野菜全体では6,662トン（同250%）となった。生鮮野菜及び加工野菜で前年を上回ったことから、野菜全体では前年を大幅に上回った。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成25年		平成26年		平成27年10月		平成27年1月～10月	
	前年比		前年比		前年同月比		前年同期比	
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	63,894	98	711,826	93
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	141,091	103	1,454,133	96
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	204,985	102	2,165,959	95
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	120,123	101	1,123,132	96
中国産シェア	52		53		59		52	

主な生鮮野菜の輸入先（平成27年10月）

(単位：トン)

	合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	23,453	中国	22,815	米国	638		
結球キャベツ	7,386	中国	7,276	韓国	110		
ねぎ	5,504	中国	5,504				

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

野菜の輸出数量

(単位：トン、%)

区分	平成25年		平成26年		平成27年10月		平成27年1月～10月	
	前年比		前年比		前年同月比		前年同期比	
生鮮野菜	9,406	145	9,573	102	4,459	530	12,675	174
加工野菜	14,174	122	17,061	120	2,203	121	16,417	121
野菜合計	23,581	130	26,634	113	6,662	250	29,092	140

主な生鮮野菜の輸出先（平成27年10月）

(単位：トン)

	合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	3,209	台湾	3,194	香港	10	マレーシア	4
ながいも等	646	米国	385	台湾	237	シンガポール	22
かぼちゃ	196	ベトナム	100	香港	84	シンガポール	6